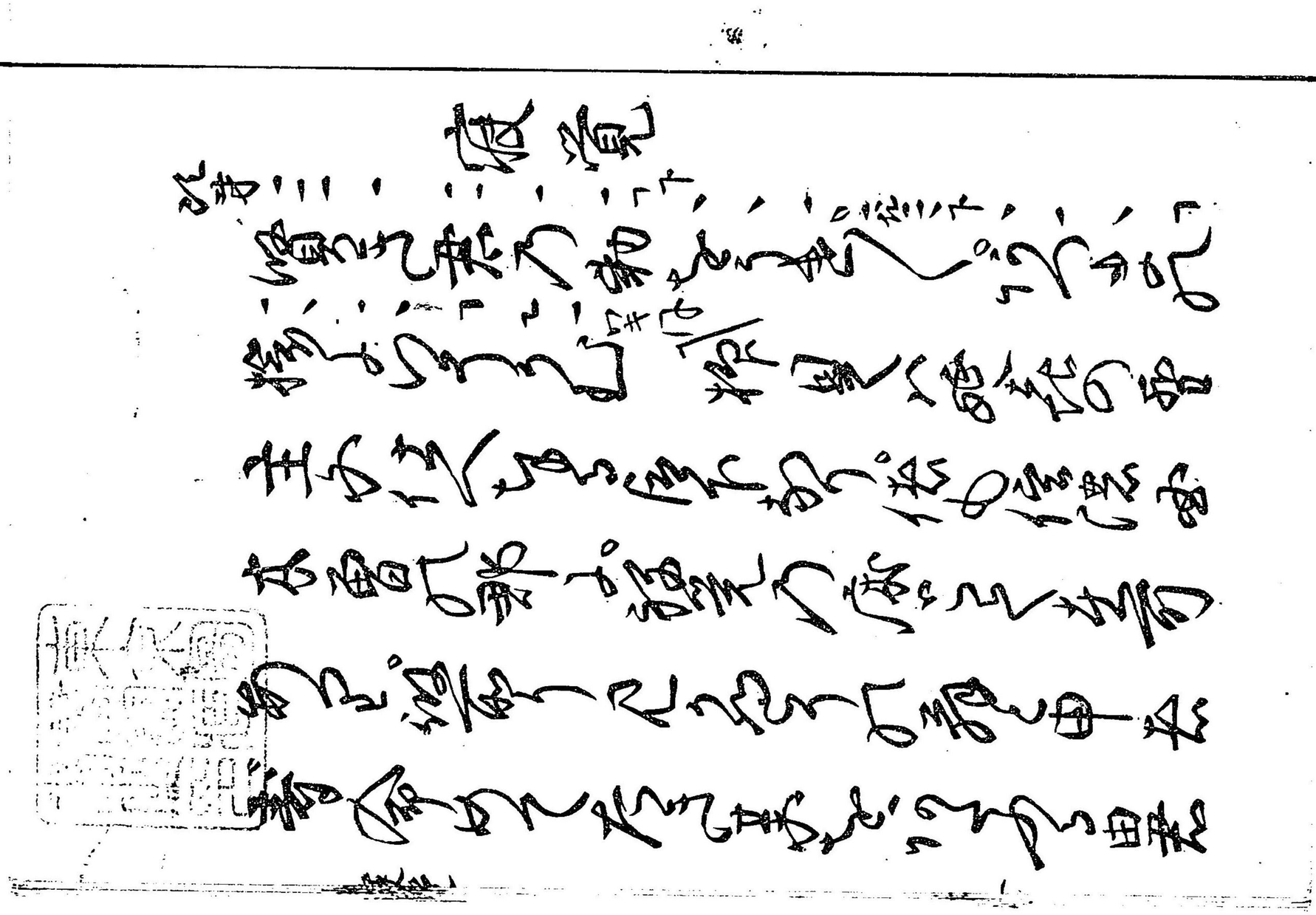
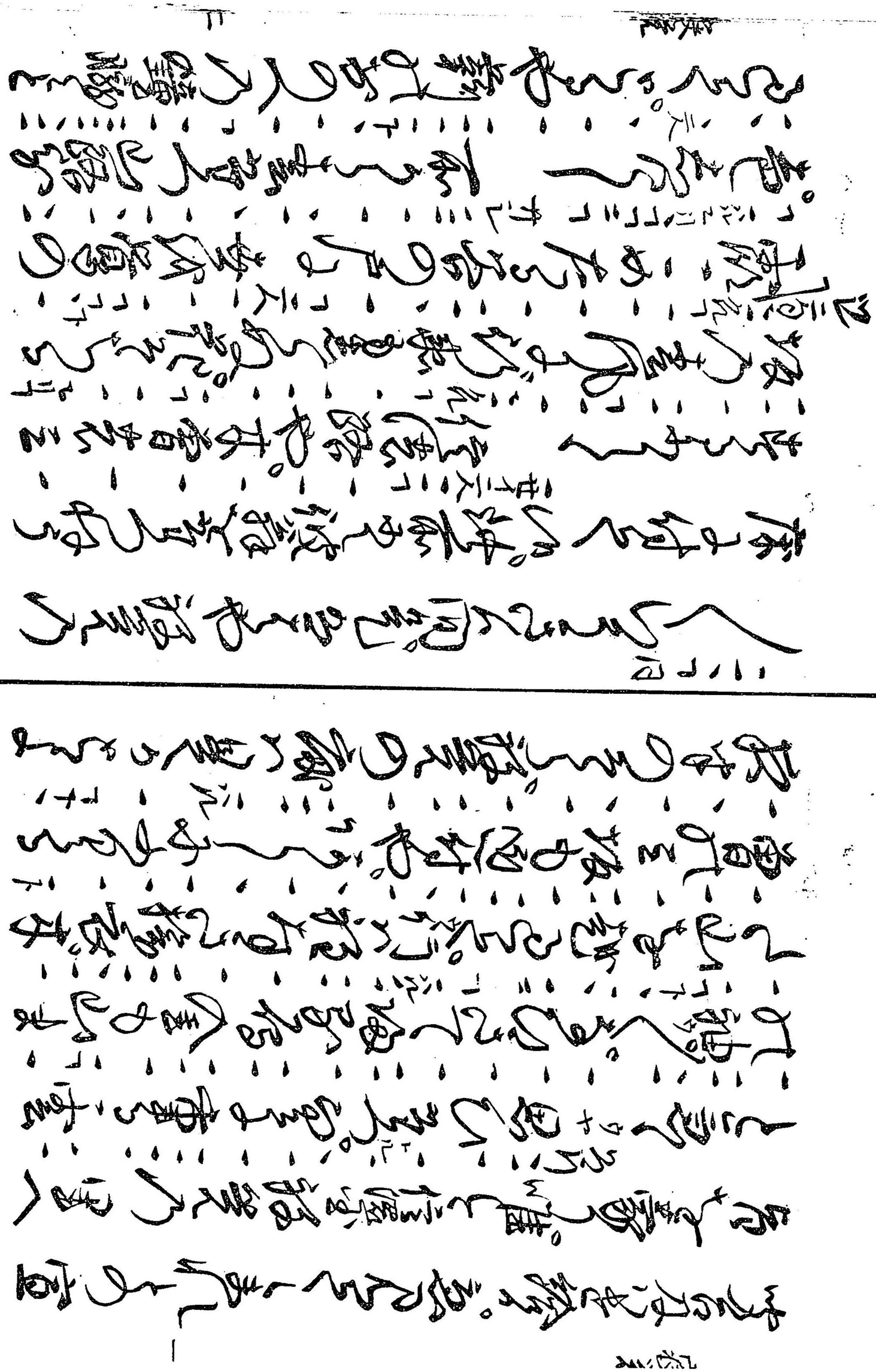
徳世論 孝外六十二番

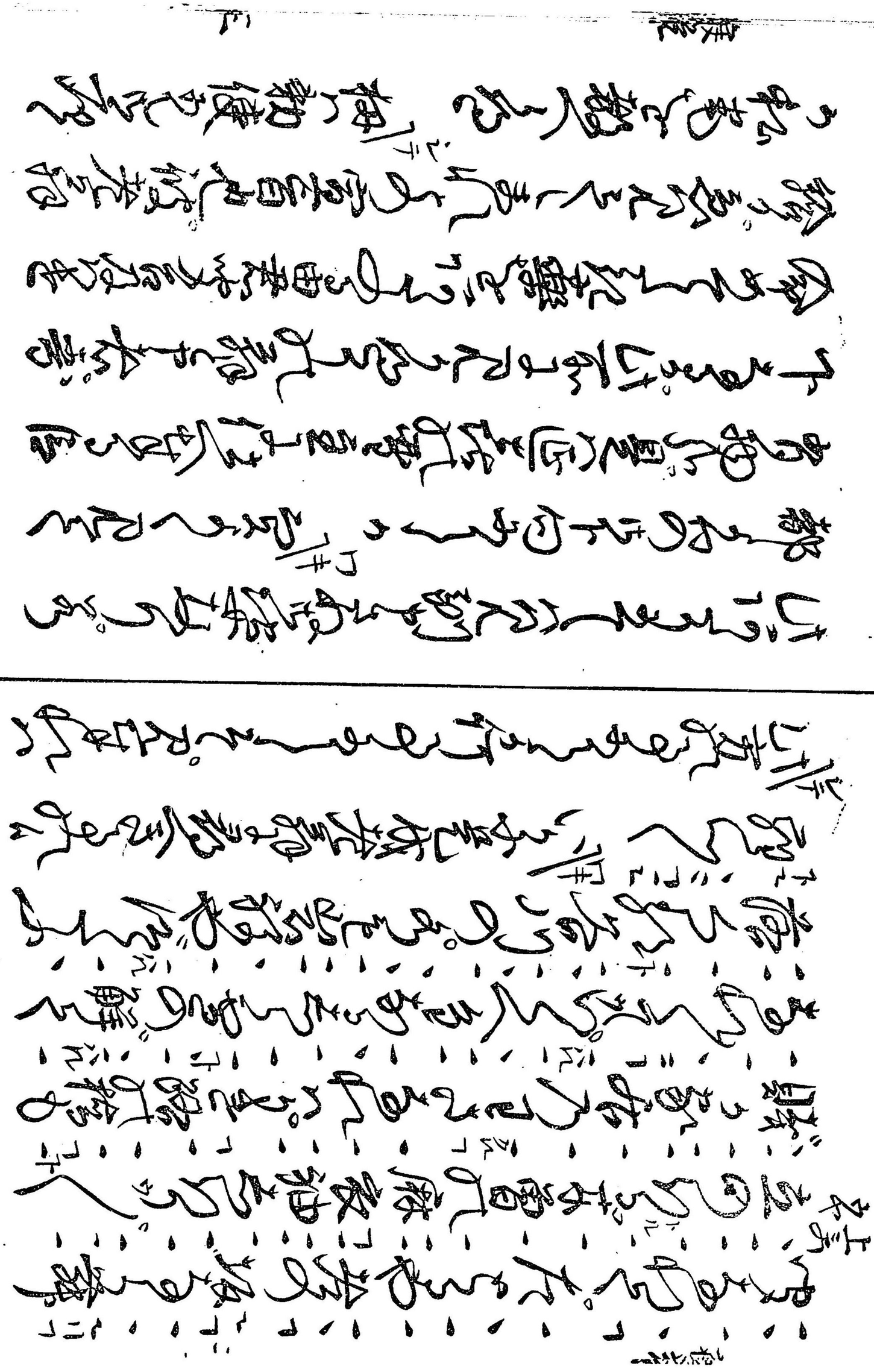
寝覚
江野鳴
代主
九世戸
逆見
一

東京圖書館

和書門	音樂遊藝類	二函	五五架	一五號	一三冊



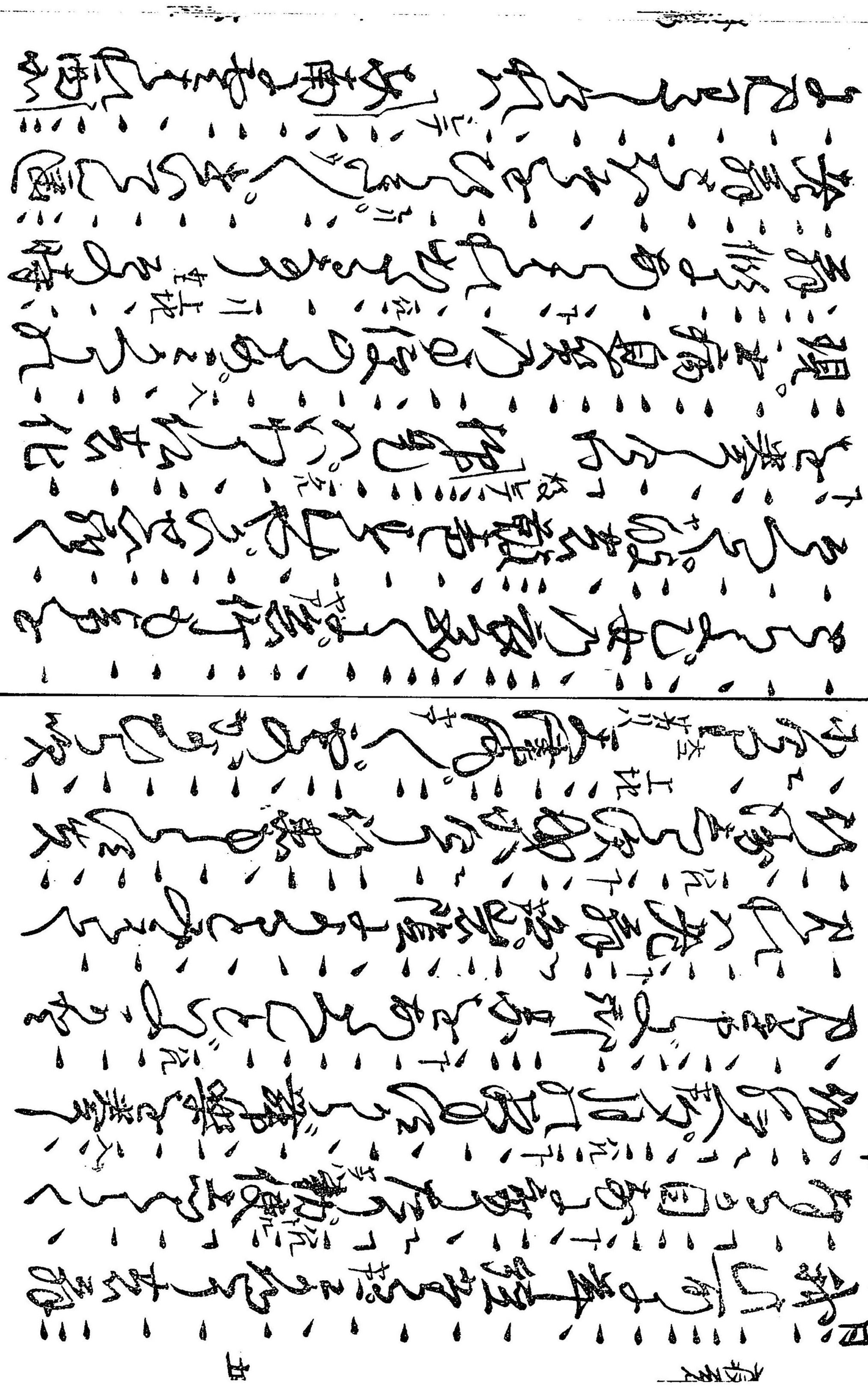




そや。豈有耶やん。如何して此の義を
ヤハ　ヤ　ヤ　ヤ

ゆうべ(コヨヒ)をしまして(ココサレ)おくるよのひと
りのたのもしさ(ヒ)ばかりをしるしびとにて
なくこそとのかうの匂(コヒ)やうらもとめ
ぬく孫兵衛殿の事を受るもの(ヒト)
よ。寿命ながさ(ヒト)たのもうを服ごこ(ヒト)
度ヲうやくゆへよりとのうの(ヒト)
とのなかりケ(クヤミ)時分やうまへ

やうあやまつてとくてそのえんを
雪のよりまいらせ(ウ)きい愛深ひとへ生の
ちのえうて。愛慶をたのうぼせ
ぶ(ヤア)ぶるよりあの成仏をつくん君乃
代をたのみ山で思ふと。勅使よりよ
きわく。勅使を(ヒト)ぬいの
かとの修へく(ヤラハ)(上レテ)へ(トル)を行をつ出ま



乃風を吹たゝまに〳〵花陽夫書斎
楽のうしき音楽乃
ぞ分くるか面ろや（カク）上北 おゝ上 夜遊の楽
時とゝろくゞ（ウ）の月を詠る
物うらゝ（ウ）きや河（カワ）波もまきこの
て二龍の海へ（ウ）ゝ（ウ）上三 おゝ上 両竜
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]
[illegible]橋ゆうとうら濱ゆうぶ[illegible]へて
龍神もよ西ゆ[illegible]
[illegible]
[illegible]
明りの宮ゆ夜[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]

第[illegible]　江野鴻

[illegible]
國[illegible]
仕[illegible]
[illegible]
不思議[illegible]寺[illegible]
乃鴻浦[illegible]則江野[illegible]

きよかはの路と号す。海の雲に天
女顕まし給ふ。昼弁天影向の地なり
福寿寺浦の霊地なれば、ふるき
世よりの勅願所なり。品川東海道に下
向はあれば、あたま路とぞ呼なれ
行雲乃ぐ、影もしぶるみ
ぞ松さの根もとなる富士の高
根乃月影もぐ山とけりなる相
模の国よりなりつ　同月廿日
国府津
国府津の相模の国府
鳴沖なれば、此浦の者とおぼゆ
由もうくいなやと春雨　五月十六日　鴻津島
ぐさみる涼し波のうねのうる
あさほらも　同廿日　波をとたりや夏衣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ここにて、こゝにて、こゝにて、こゝにて、こゝにて、きいたのうみ山国のつきぬ代にあひぬ
とこゝにて、
かすやく　実方朝臣
乃致景を探めぐりて、松島の海
海人あまの家わらべに義せとい山
浦の春の　実方朝臣
月に作せしめ春うて
う毎日山潟にあそうて山下岩窟社
くを清めて春にくに松川ゆいつく

ようの川に秀ぬして　是ハ欽
明天皇の御代に仏教下ると山高
浦おかの国にまで仏の法をとゝ
く寺見ると雪とうの宣旨にまう分
見ると勅使を下さんあるに多田を
よ作　実方朝臣ハ奉ると川ようの勅使
みちまち仏とそやに松島に欽明天

皇十三年卯月十三日戌乃刻より
同廿三日辰の刻よりまつぷ野南海
湖水溢れ出雲辰くらくをほひく
天ゆりうごうしたり大地震動まる
十日にあまりゆりつゞけて天雷
ふるひつゝ童おたよ侍り後乃
天竜龍神水火雷電山祢鬼魅夜
叉羅刹雲よりゆり磐石を下し海
ゆり堀砂をつゝ出ぬ　ひいくたらい
うたらよりゆりくを弟天ゆりる
かとり　角さきまた泉をくうて
し波浪金をとりよ仰り　宮巖を
ちくうかゆ出て夜叉鬼神鳴を作れ
武八銅を物をゆりて打くる死

ひい鉄杖をもつて
つゝの岩を押合を
そゝりたり
給へば梵天帝釈四大天王下界の龍神
海を衛護
あいけん法華りて海を

法華経を
乃鳴と見
つゝや則見れば君の
当所をまぐり
よもじよく門前を
天部の歌向
ちつまをる

中くまる山鳴は

谷弘神まつる田となりぬ口なし
明神ハ天部と夫婦の河神なり
海辺の岩仮ぶりてを拝ありて
受有難やかくうつり深き恵ふれ海山
も杜高家とうつる　聲の松原
の音ハ　涼き尾よりも波も　松
まが田の実ハ　ゆるぎなき

ハ付を　ふるの代の始ときよをいのりを
きくてハ行ハ　鴻のちいさ
つさの愛量債のたりとけ
ハく国をハ　善神ハ　切の福をさま
悪神ハ　方星ハ　さらひとり魚浦ハ
天部の極ものとかや　新の杜隅なさ
ものもの量　杜乃鴻よ

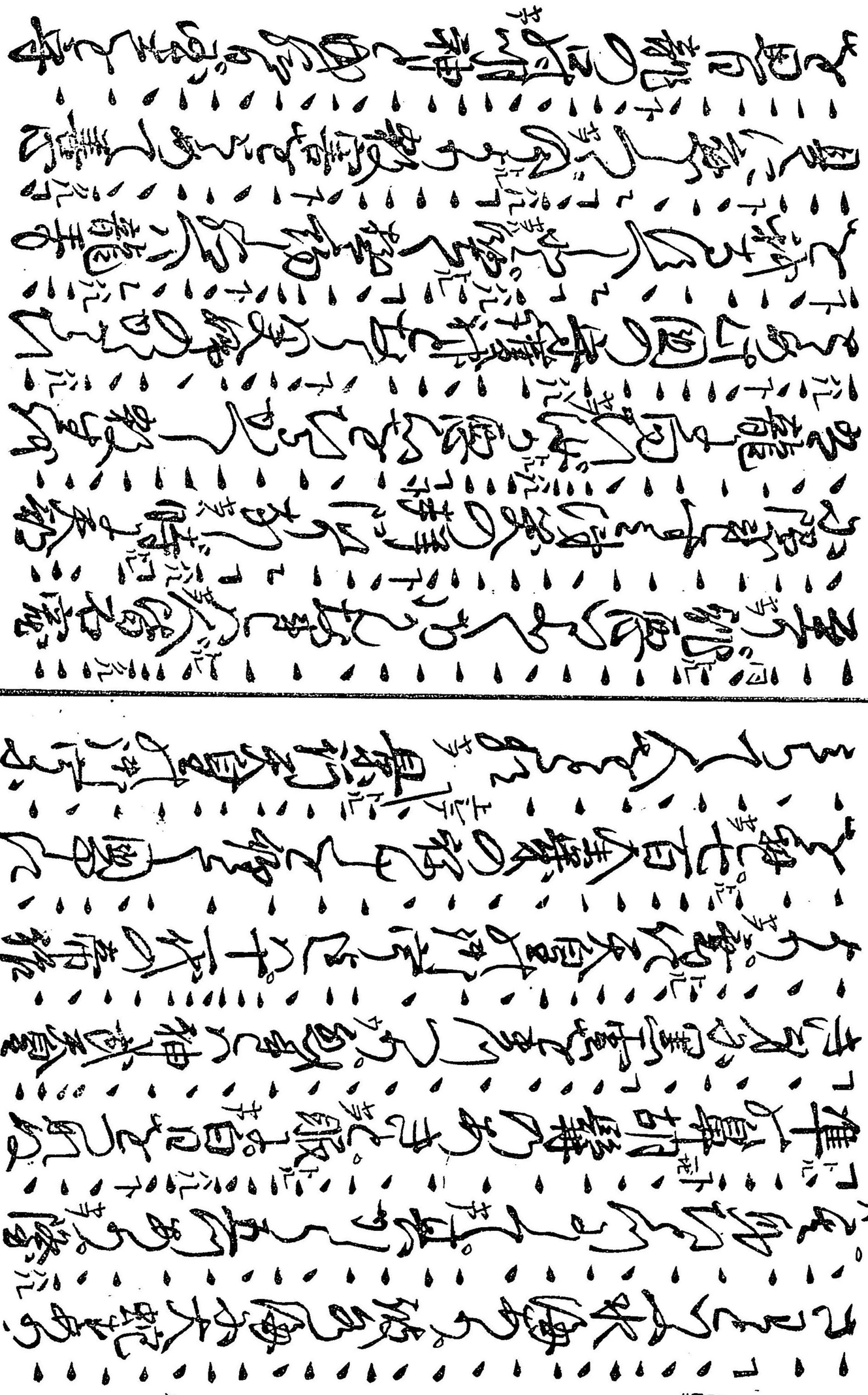
て自然の細極を有へ。弱さんす

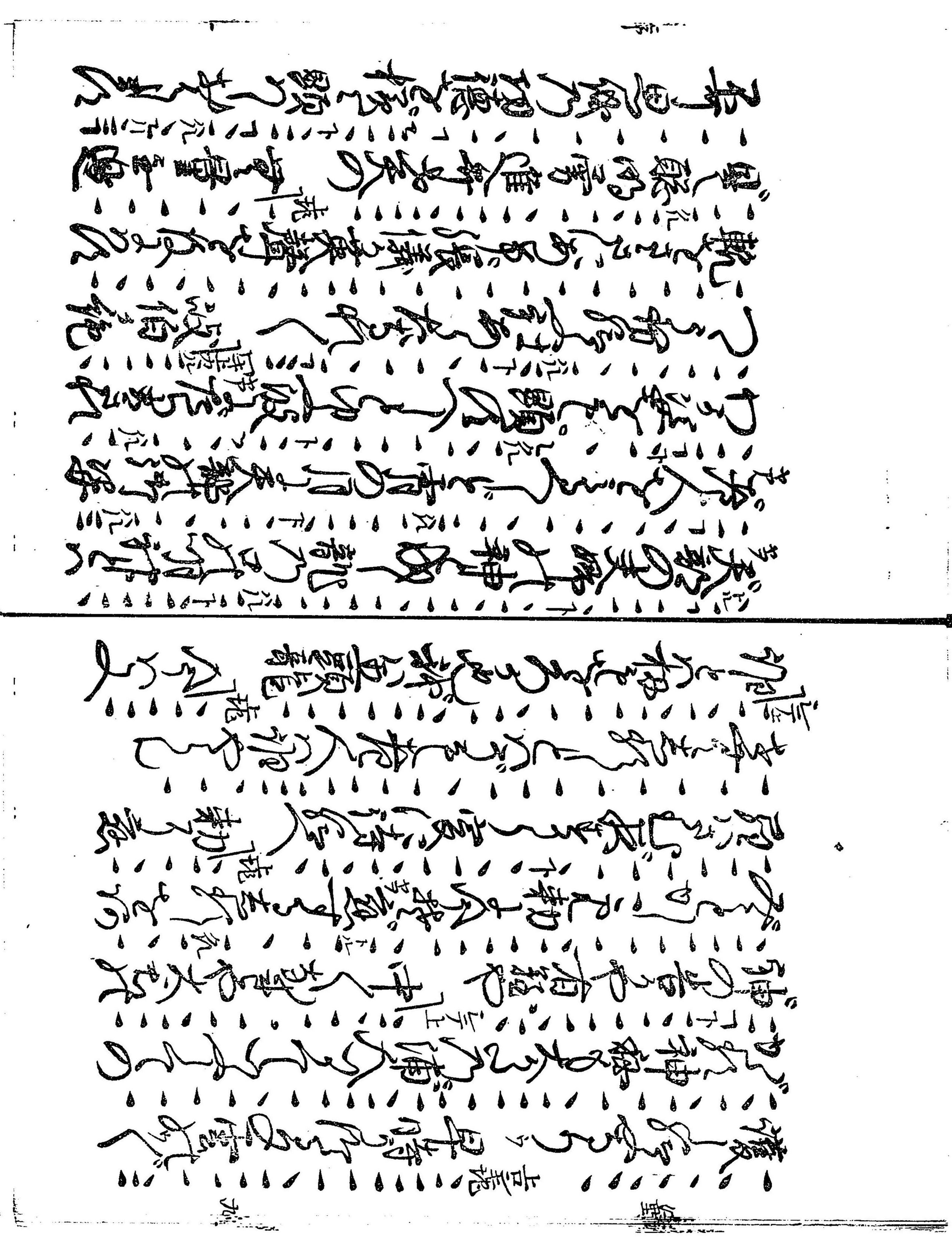
れへ（クリ埜ニ云ル）松江の湯。とつかせ。ものく

ぶり三十余町。そのの高きは數十余

丈なり（コヽリコヽサシル）水の山の陰をつゝむ山の多

ゝ。ゝ。ゝ。

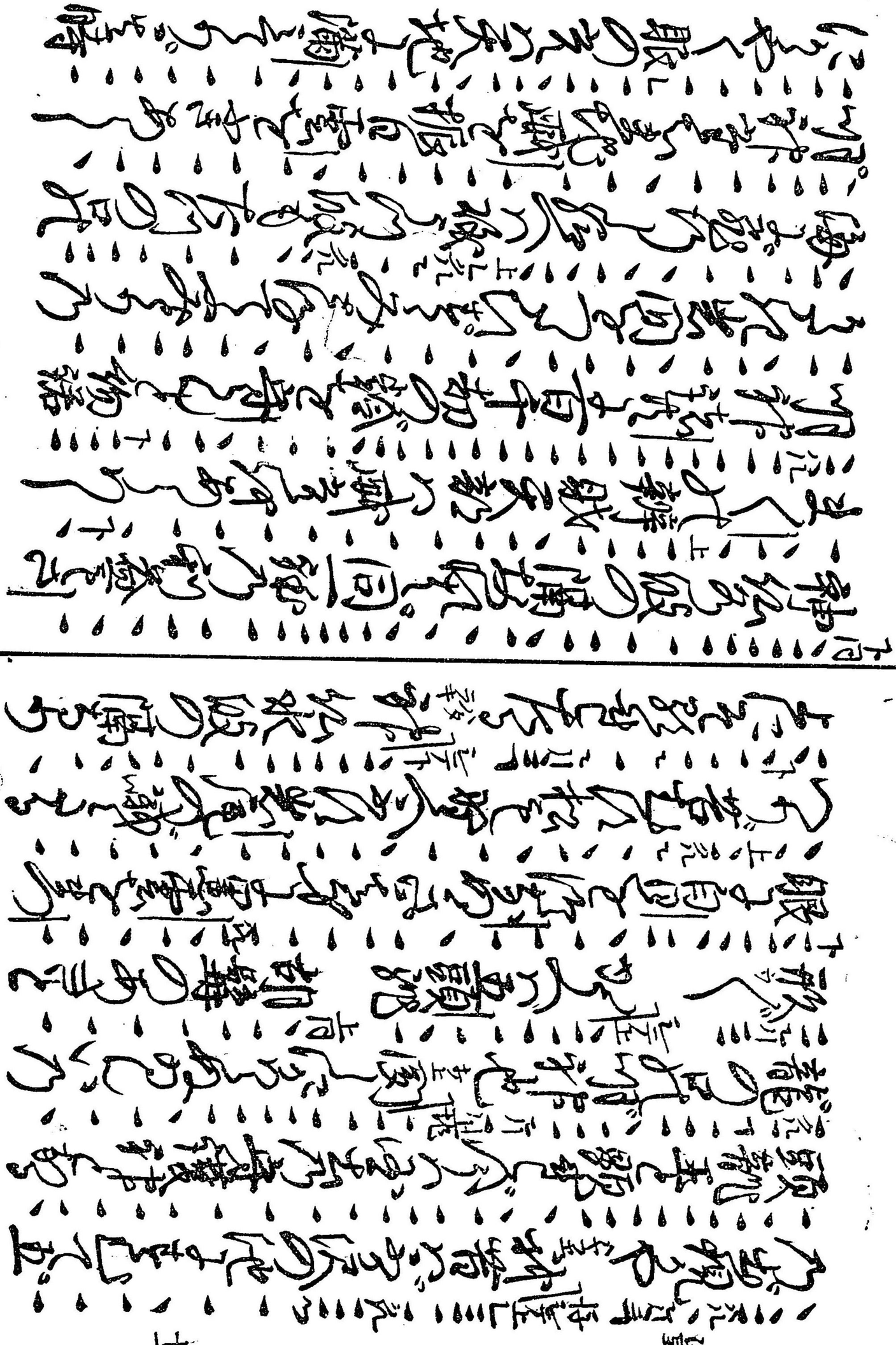




天安

月を思ふ心は宝珠のぞうとを抱くの
心ありて　上句
数うちの　あ上　あ天
ここにて　天安
やとの月へ　今世君のうれと所歌よあい
上句三　上句二九三
にあり　あ上　下和うおもしあこはうしく紙数意
宝珠と君よりあもとうをりをりく所
風の戸ひらだ長よ南あて十五童女天数
下　上句三　上句　あ上　のを安あらいまうり　あ上　宮は淋しのそれ

河方侵ひくもも福寿圓海の形見ばけへ
下　上句二　上句
現寿を元楽後生をやうと量を
宝珠をもよ北と動後よ見ときんを
上句二九
給自寿を春うて抱と病羽袖をを
上句　上句三
てうひ行ひ　ガ　あ上　天人聖宮量蓮の野のく
ばやと思ひ者の海のうちは中よ雲うか
上句二九　下
つうやと味ってさう海く潮ひ頭龍



天部に雷を伴ひ紫雲のごとあらはれ
秋の明神立ち給ふ墨やに筆を
持ち鳴根を出でうつり出でや猶
の狂風ふく海を雲中にあり
とりすてを雲中かあらはれまた有
かいまの歌向う那

代立

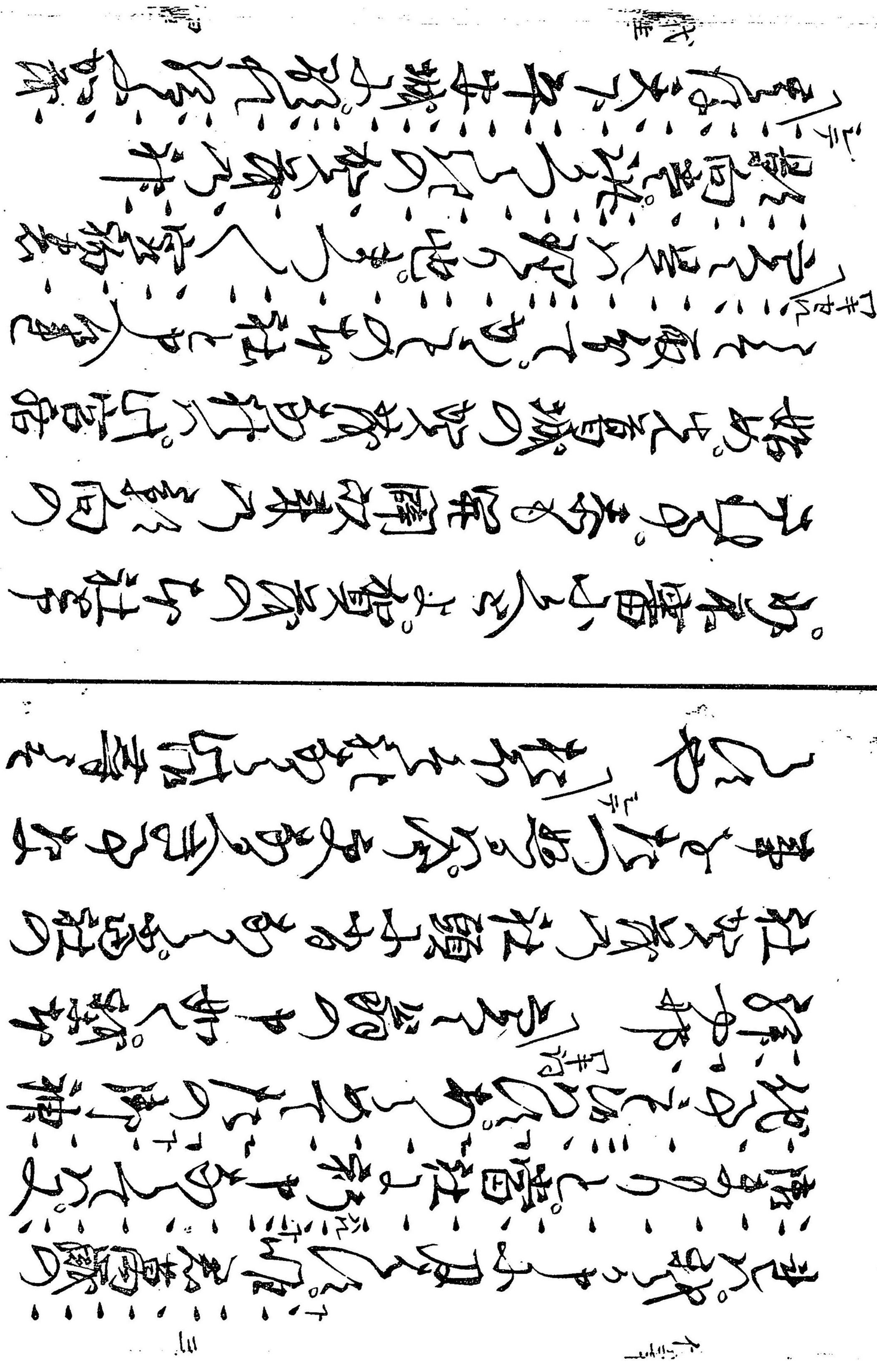
保の戸さて秋津洲やく道ある
時代不明出生
祈是に都加
美の明神ゴ仕(中)神職に者あり
ゴ和州葛城の明神に當社御一新
のはなれたいまゝ事なりたる
狂ゴ只今和州葛城の明神より

神仕作　出方の國、治る雲の景
まてをゝく。君恵法新あらけ
き。天は日新恵山のそふめる時代
きくりを為る。墨ゝとそ為る城
つゝが芽の宮居ふ恵ゝ
かつゝ恵。賀茂の神うき時とゝ
さゝぐ卯の花ゝ。ぎゝみをく
風もなゝ

昊ゝ
ぬ枝を夏木立ぎきりたゝて
ぬく。當國菖城や
ぬく芽ゝ社中を清めア者也。ア紙
やはき卯月の始めをく。於芽の足
ゝ花ゝ時とてふ。ゝも素ゝきり
ふ忌衣恵。袖白妙の本綿たゝみぬ
さゝとりくの神ゝ祭ゝ代をまをゝ

乃道さくふ萬歳のすゑ祈る所り
いはく庭を祝よめ学く
よりて。蓬ふ海ゆ。ひ神道く
和光の新きいやまよ学へ行也
めぐも豊ふ照ぬ日のかや千里方
里とまさまて。蓬ひ乃海ゆ。あり
くやく めあ乃ふ見ぬ老人見へ

尚社くゝ先て手形の者之所乃
其皆故方色所方へ。俗の名示
を教へ久 ひ乃ふ山萬歳乃かも
の宮居。都乃賀茂と佐一神の佐
ゆなまい。新の人へそ志ろ一百へ
きれを上部田新敷乃紀柴とい
ぷ乃とも奇人の志ろ一めとな



の神山に名を紀の行ひ
法代を治めし七川の道も
すくふ くりあきやう金山も
名に首城の賀茂神ぐ法代
とまりとり出法滅亡あまりや
く四海の浪を治りて国富民を
豊なる法新そ貴りきまく

君を舟に水よく私を浮へ
つ民よくく思ひとやや 紀
きに城の法身さて流ふりて
法名民そとよい山陰のかの
法ふ洗いと民よき流名上人方
つぬつちと民と動とき生く鏡
時とかや 有くた平ふそ

「とりつくとぞ」
つくばやまる天の山と申へ金剛の峯
として。胎金兩部の甚深法の影
祈も影向するとぞ。西天佛在世よ
り東北の方峯に是大和の金剛山
三國不二なりとして。御代の寶
の山とぞ見えたり。都葛城

の。於峯の祈り。隱岐を王城の結
守とあらはす。百王守護の祈山や
賀茂の森として。天竺も大君を清涼
殿や長樂に出御も絶ぬ事くふ。邪
門の毛目の法の法樂とぞ
子早振。於峯の人あれや袈裟の袖
きぬ光車めぐる日の夢のよる

紫よりと称さるゆひ（結）根小松の子代元
とうきく水鳥の子代元
りやゆ（柳）菖蒲と同し神山元
新かな文の法代元
此所代と寄りの宮（宮）
城の神の代元
ゆふ雲の公羽を扱も狩の流元

代全

ちとい（井）を新さ元
うてい事代主の公羽と法代元
ヨヤ（夜）ゆり（百合）代主の代元
居いふ（言）事代主元
うう（宇）の神の名元
神（ヤヤ）と顕し。接宮代元
て。菖蒲（ヤヤ）城や高岡山の長の元

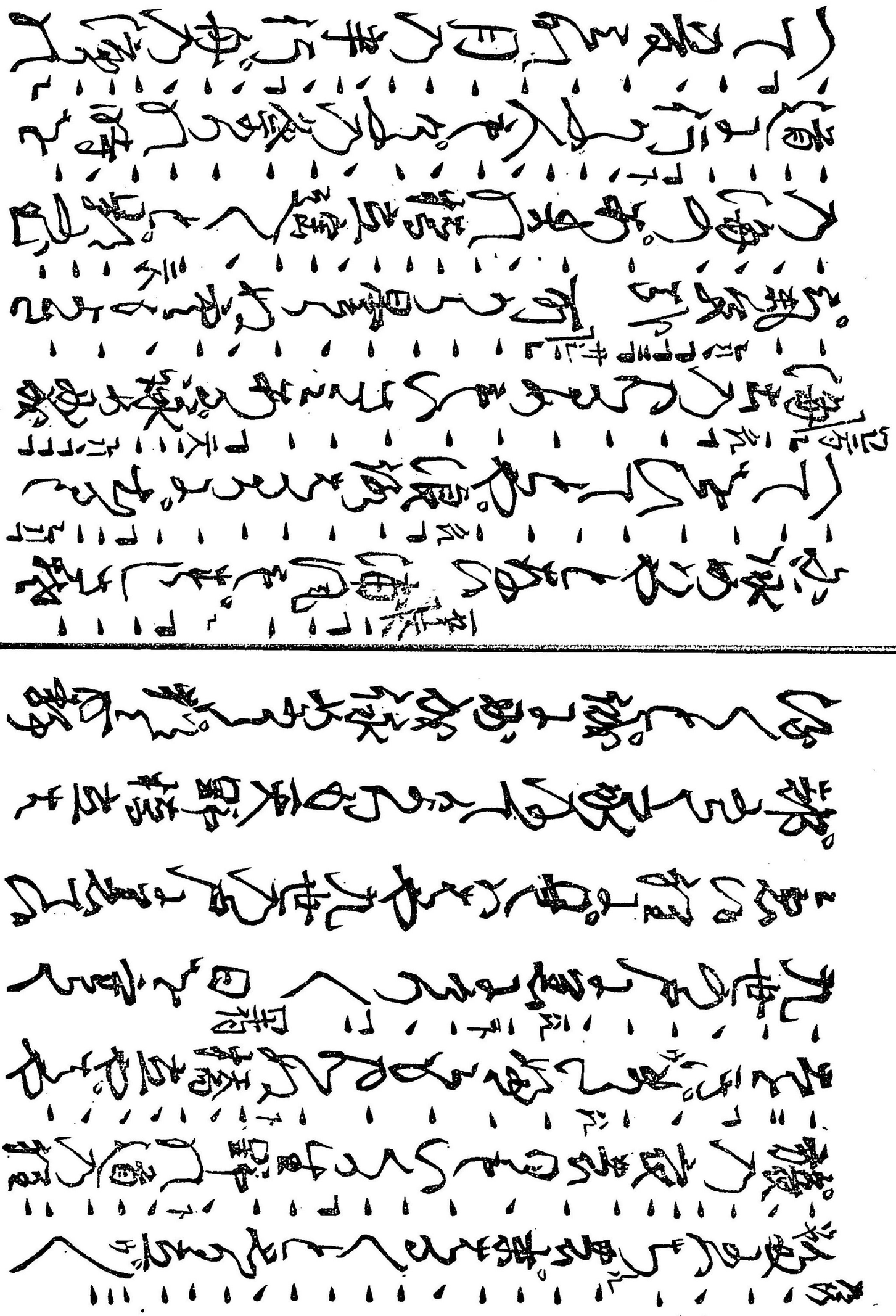
きりて、大の戸よりせたまひるを、
くゝ（ロキ上ニ）心ことゞりよまさむ月のゆく光
はやもあれ夜神楽乃ぽ声も同じ
松の風吹行空そ。静かなれ
なして上
ゆらゆる雲の打うちあれ秋初よ
足此山ふすまくぽ城ゆり清代を
あう光。天下泰平の寶の山。菅城の

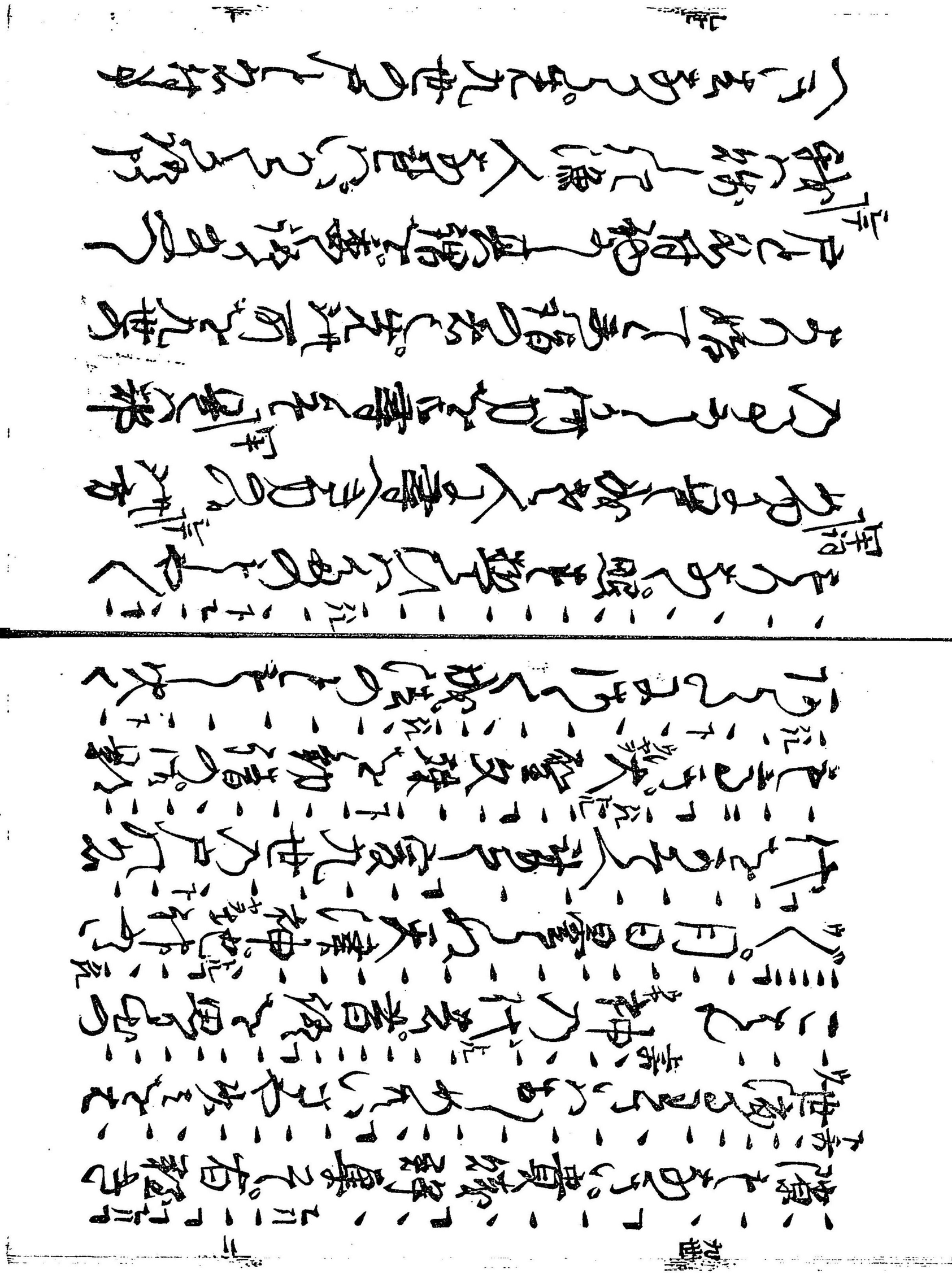
雨と顕まて。只今家ふまりうち荒
西白乃秋遊やま　樫ゆ。菅城山
よふ雲い　まゝ（シテ）付く思ほゆる
れ（ヒカ）失きみそのうち空　見へ
卯月。の花名　雪降内ゝ桜
乃袖。ふき大和撫柏子を持て。面白や
上吉キ比
ウあう宿紅やゆりくや。天下泰平楽

といふ外道の弟子達　悉敵の羅
とのうまして上下万民群衆　北上　相万
秋楽と声　堀　辛天の楽まて見
仏菩薩群衆　北　虚空の群よ
　　北　秋月の方の
　　上月
　　ヤハ
　　ヤハ
　　ヤハ

第二　九世戸

風流しき猿楽、ぶりい立道
そなる書記　掃部頭宗像氏
なる所なし。依て丹後国九世戸へ
神代の古跡なれども天空五重山
の文殊を初請入地ぶの林鐘寺は
後今可なれども所詮ぶ今こ指付





それと天神七代地神二代の代神遂
に天降りて宮を天空五星山に天
殘る勅諸人へ天の七代地の二代
をば九世の戸と名付し給へ
善薩入り給ひ給へ帝釈の代
さとりや長後竜宮に入給ひ
を立給ひ給ひ給ひ給ひ

則師子の法をとらへ今は絶えぬと
ゆらく龍神は物を指給へ天よ
里天人あまくだり天の燈竜神
の代物ぞ松の枝をもえをあらへ
の時節ことひ有程の時
節し神代の昔よりへ今は
絶をれ変ぬ物を物をまのあり

ぽ[illegible]の我有程に　中くの事
[illegible]なとよぽ出らる日を曇りあさ
青[illegible]
天の橋立ゑんぐ　都名人を浦
人[illegible]ゆ[illegible]見人男[illegible]すまくて四方の海め
を面白や松風も[illegible]吉[illegible]ぽ立る浪し
白ぽの月[illegible]
[illegible]史地神二代の[illegible]神姫て宮よ天澤里

ぽ世の元生[illegible]海の馬[illegible]ぽ[illegible]を
初[illegible]
の[illegible]ぽや神国とあらぬ[illegible]
きう[illegible]
の方便[illegible]
三世[illegible]
ぽ[illegible]ぽ[illegible]
[illegible]橋立を[illegible]

と、物語あり、是は、神の代、まこ
とうらの雲、虚空よりうくて
とゝまりてくかしらの名し火を
やきて日はよをとゝまりて月
しく松をうへ、其ことの火のあ
まりをかとよ、ゝ根のひしろ
ゆ置の後、うくきと故ある神有と

上レテ

角て神くあり、まりて天全五星宮
ゆ珠を初諸しるへかこうらの雲
をわきゆ、ゝもハト界の竜神、名樂
種くの花ゆ、ゝ指ちよ、ゝの
初向の有根弥ゝとゝ、ゝかうり
宮有經ゝ神の代ゝ、昔ゝり
きこれ世ゝ、孫ゝ、ゝ火くゝりる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぞ、まくらかけ、上に竜宮より
ここに、ここに、ここに、元
持つ所の光海ようとて、元
一一一

くにとうにまもられたる物のあり
はあるとうるぬものをまもるのるぬ天
津しめ雲井よ入ぬるべ
又竜神ぬ波を
ぬのめくるとたるとうて。ぞうぬうし
そべよまな。くひうまてぬな

やまとぬと御唐錦。くに。龍田の
神にまん（口語訳）抑是ぬ當今よ
仕へたる信下也。扨も私州龍田の
明神ぬ奥社ぬ宮居ぬ洪水
君よ御願ぬア。只今龍田ぬ参詣
佐ウ州（道行）ウヤ国（トル）くのまい七州の新路を

みぐ。まぶ。浅間や立帳衣
くるくさ。雲をき山城乃井
手の下ひ。まうを。浅とし
ふ。ふ。坂や。龍田の山。ふ。ふ。
く。新田。ぷ。き織かく。
月。色。く。秋。ぷ。ぷ。
の色。はめて。綿。とまる。

の夜のあけ、紅葉の
ぬしの消やうく
田の川表水の色
てしなき海
天のけしきも
色々に変じ
そのうら回り
いと長く

神奈川の
ぬ
濁りとゝ
る
遊ぶ
の宮
ものい
ぬ
いと長く

次の光景は
方の事
昔の洲
れ道
の
安
去
出
あ
暗
や
暗
方
暗
暗
暗

みて別てく是こて寛山みく
ハへ(平)抜四こるより祈さひ対時よ
ふきこの日ゝ第一の寶の御第
と祈ありハ洗御山の事みてゆう
(テ)すくのすゆ山面の出ゆみて参社
(クリ地元)寄留委造つくゆとハへ
抑(元)徹まつりけ清祈とい別当社の

法華形り。昔天社のみとけて宋
(コトニテサレ)ひきかなれ御國とや 寄ル
第七代よりひく弘まる法と侍
特諸伊特冊と号人時ル國事
立いさるきル流して宣つく。豊芦原
子五百種ありぬんちよくゆる
へとそ。別天の清第北さつきる

クセ
ヤウ
伊勢諸いせのくに、須佐の御子、
ぞくする道とあるもの、天の
浮橋より、二神たち、すゝ[illegible]て、洲の
芝、海中より、ぬきあらはし給ひ
よる。此芝と改て、天の[illegible]と
名付て、元国とぞ、[illegible]
二神の始より今の代までの寶なり

ウ
葉落ては、[illegible]て、御代たゝ
ふ[illegible]。[illegible]
を[illegible]。[illegible]
おもひて、寶の山と号し也。松
芝の主なり。名もいきよ
[illegible]まつり。扨は、[illegible]
へ名付ゆ。龍田山。紅葉の八葉也

則茅乃たまくしげより。恵を日新やく
きあひの光をまさしれる代茅の嘉
あそつちすあ[illegible]なる事を寄こそ
たゝ[illegible]程乃[illegible]代の寄れ山なを
よゝく孤へや上長地ウ宮や詩田君
非の名乃ゝく寄の[illegible]茅同しくい
可とゝなてゝ[illegible]せ給へ三ノ上山つゝの振

人や新くゝ[illegible]沢龍田山のゝみち衣
乃子早振神の祭とやめ堂と
朝ゝ乃鈴花声ていさうとお浪君
敷ゝ同し敵祭の神ゝ我なゝと
ゝ綿四ゝ弘新ゝ[illegible]ゝし神楽をうゝ
家よりゝく。[illegible]の夜楽をすゝやゝ
入と入て。[illegible]ふきゝゝ入と入て

う、おかなる　日本上ニ
神山のくれその紅葉
如きてきくぶ。宮より孫の花
より。吉野なえ花ぬりて。美吉々
愛とる。ふきちよく　上記
うれてこやりそ乃。華れ神社山
ぬ。　上記　楽ひ
ぬ。　上記　招見い。大伴弟と守護
しまぬ。紀葉ふれ行。和光ふ出く

龍田の神　上記
ちはひ天津みそらの
雲　上記
ふい寒山くり迦陵ふ
しくてくまつまや　上記
鶯　上記
鶯　上記　語ふ　上記
かなる　上記　鶯く山の雲霧
くれゆくるのぞ　上記
ぞ　上記　ものみくふ大の雲
ぞ　上記　雲　上記　神大日本國といつ
神ふたり。神きに　上記
ぬ出ふ如の花と出て

和光同塵の出世をもつて佛法
流布の国土とすべしなり南
無帰命頂禮大日尊王如来
仏性法仏性無礙なり此世界は
さへぐ天の浮くつとわたるに
則法ばかりなり此世界は
さかりなり法ひ青海原とかきなく

ぬりなり法ひ青海原とかきなく
てぽとなるまり此法隆鴻きのくに
仏教志法筋蓋四国地つくハつ岩
ふとなつつくハ州ハまと名ぶ地
人の元を感ずるに弟は法あり
者弟や 仏くたり荒海なるく
ぽるうう論ハ花芦原ぶとぽ弟の

風くやてとあつく芦つくばかさ神ひ
引拾ひけい山とありぬ宮ノ山と
いひぶきかむくらの石ら孫城と茅の
えさきようつりくもあたいくらの城
とあつ田ノ城といひ其外東西南
北十方を納め悪魔とありそけ者あ
ゝ京の國治り安泰ますりゆ

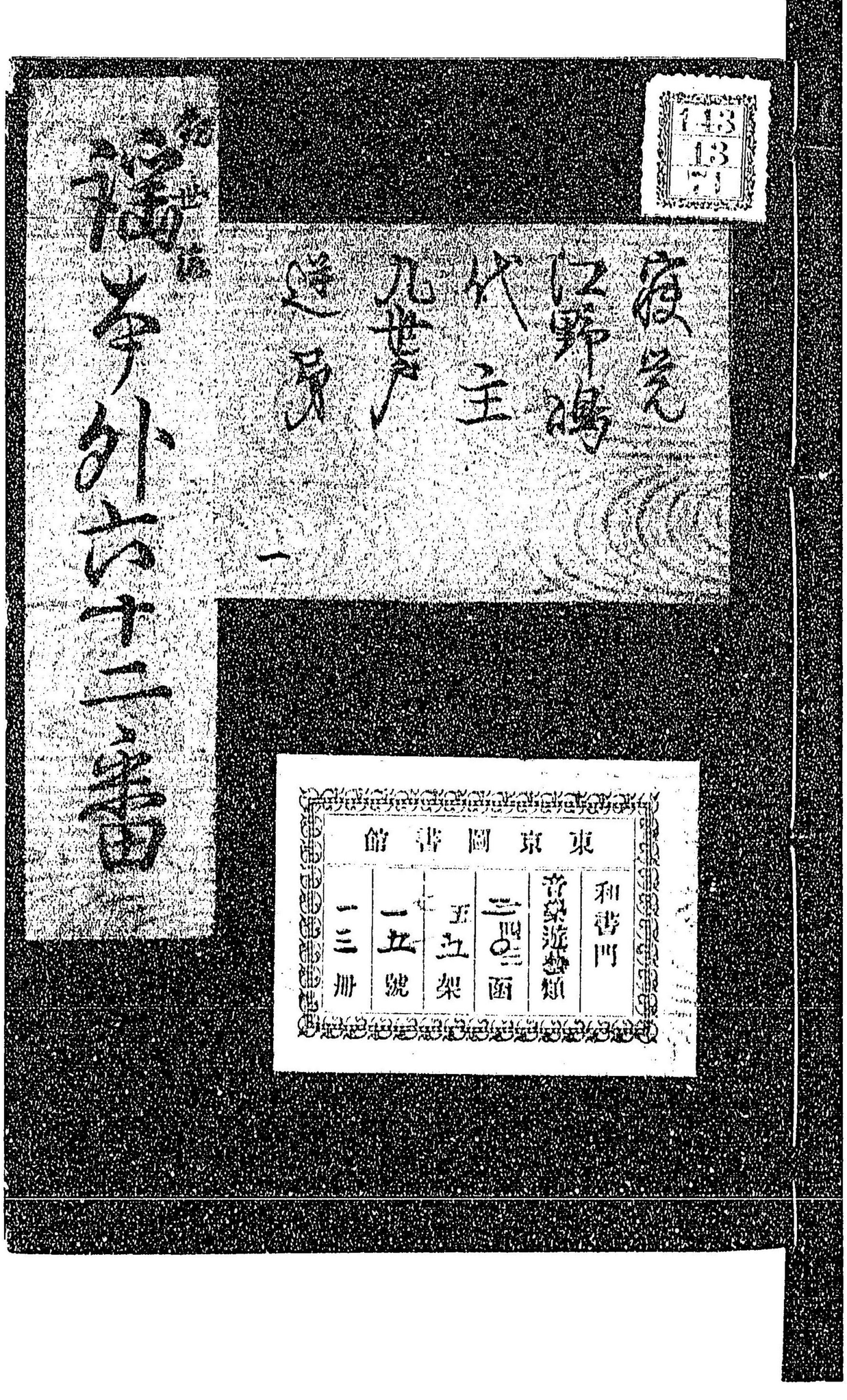
ゝ迦毘羅城まこと其実山。納発地
り毎日発ゆるや日の本志賀の山
お鬱田の神ぞ。あらつかて者
つの神い沸美沙守りのゆ神也

右之本者觀世太夫章句
真本令版行畢
正德六丙申歲孟冬

示未荏苒數十年ノ星霜ヲ経ルニ從ヒ
改正增補ヲ加ヘシモ印刷ニ附セサレハ之ヲ
世ニ公ニスル能ハサルヲ悲ミ今般
宮内省　御用達觀世清孝ノ校合ヲ
以テ茲ニ之ヲ上梓スト云

明治十二年九月廿日出版御届
同　十三年三月　發兌

京都府平民
出版人　檜　常次
上京第三十區三條通寺町西
丁子屋町三十五番地



074952-001-1

143-71

観世流謠本外六十二番

観世　清孝／校

M13

CEL-0668